

— 市販衣料品の蛍光剤に対する表示 —

花王生活科学研 ○根橋 勉, 沖田 由紀, 重弘 文子

〔目的〕洗剤中の蛍光剤による衣料の変色問題を防止するうえで、衣料の表示を適正化することは、効果的なひとつの手段である。前報の調査結果¹⁾では蛍光剤に対する衣料の注意表示は1%未満であった。現状での表示の実態を把握するために衣料調査を行い、蛍光剤によるトラブル防止対策を考える一助とした。

〔方法〕市販の衣料について、東武百貨店池袋店にて実態調査を平成4年秋に実施。対象衣料は家庭で洗濯可能なズボン、ブラウス、シャツなどである。前報の調査結果¹⁾と以前行った表示に対する消費者の認識度調査²⁾をもとに、比較検討した。

〔結果〕①蛍光剤によって影響を受ける衣料中、蛍光剤に対する注意表示をしてあるものの比率は、前報での調査¹⁾（1%未満）に比べ増加（40%）していた。②衣料の種類やメーカーによっても、表示の実施率や表示内容が異なる。また衣料では、ポロシャツの比率が高く、ブラウス、ズボンが続く。③表示内容が適正でないものも見受けられた。

衣料表示実施率の増加や改善は、蛍光剤による変色問題の防止のうえで重要であると考えられる。今後、一業界だけでなくいろいろの立場でのなお一層の努力が必要である。

1) 日本繊維製品消費科学会年次大会研究発表要旨, P 1(1983)

2) 日本繊維製品消費科学会年次大会研究発表要旨, P22(1989)